

1 必要性及び目的について

<p>黒井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税の導入は、観光に携わる立場として当然必要と感じている。 ・ただ、苫小牧の宿泊客は観光目的ではなく、ビジネスやスポーツ合宿が中心。 ・そのような中で導入する以上、宿泊者が納得し、共感できる使い道を示さなければ理解は得られない。 ・観光地向けの施策ではなく、ビジネス客に向けた内容が求められる。
<p>佐藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域性への配慮」と「宿泊事業者への経営的な配慮」の2点を重視。 ・苫小牧ではビジネスや合宿での宿泊が多く、以前から「8,000円以下非課税」「大会・合宿の非課税」を道に要望してきたが、「税の公平性」で却下された。制度設計が富裕層向け事業者やの修学旅行メインの大手旅館の意見に偏っていたと感じている。 ・組合調査では、宿泊客の7～8割がビジネス目的で、観光は10～15%。8,000円の宿に泊まる客が300円の宿泊税を負担すると、約4%となり、19,800円の宿に泊まる観光客より負担が重くなる。できれば道と併せて200円程度にしてほしい。 ・宿泊税は実際には価格に上乗せしにくく、事業者が肩代わりする場面が現実にあると感じている。消費税のような相殺もなく、大きな経営負担になる不安がある。
<p>永井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税は必要だと考える。ただ、これまで苫小牧は「工業のまち」「通過型のまち」と言われ、「観光のまち」としての方針が見えにくかった。 ・導入するのであれば、市が本気で観光に力を入れるという明確な姿勢を示すことが必要。国や北海道の流れに乗るだけでは意味がない。 ・苫小牧の地理的特性や観光資源を踏まえ、観光を育てる明確なビジョンが必要。 ・宿泊客の7～8割がビジネス客である現状を踏まえ、「観光客を5割増やす」くらいの意志が問われる。 ・使途についても、税収を何に使うのか具体的に示さなければ、市民も事業者も判断できない。
<p>樋口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧は「通過型」の観光であり、当初は宿泊税を導入すると観光客が遠のくのではという不安があった。 ・ただし、福岡や京都では宿泊税導入後も観光客が増加しており、必ずしもマイナスには働かないと感じた。 ・とはいえ、苫小牧は宿泊客の7～8割がビジネス目的で、他地域と同様の影響があるかは読み切れない部分もある。 ・宿泊税導入は、苫小牧が観光に力を入れていくという姿勢を示すメッセージにもなり得る。「他の地域がやっているから」ではなく、自ら観光を推進するという姿勢が重要。
<p>不川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の宿泊税導入時の諮問委員を務めた立場から、「同じ轍は踏みたくない」という思いがある。 ・苫小牧の地域特性を踏まえ、本当に必要な税なのか、目的は何かを丁寧に考える必要がある。 ・提示資料の数値には、制度ありきの意図を感じた。 ・宿泊税が「観光に本気で取り組むための財源」と位置づけられるのであれば、業界としても協力の余地はある。 ・一方、宿泊税は業界にとって継続的な重い負担となる。ある施設で実際に試算したところ、金額に対して一様に驚きがあった。 ・導入にあたっては、「反対」とは明確に申し上げないが、地域性を踏まえたメリハリのある制度設計が必要。 ・最新データでは宿泊客の4分の3以上がビジネス目的。 ・この構造下で宿泊税を課すことは、実質的にビジネス客への課税となり、業界への影響は大き
<p>本田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税は避けられない流れであり、苫小牧も導入を検討すべき段階にあると考えている。観光資源が乏しい現状を踏まえ、宿泊税を観光活性化のきっかけにすることは可能だが、使い道の説明と納得感が不可欠である。 ・観光業界には新たな負担となるため、導入には慎重な姿勢と丁寧な対話が必要である。全体としては、街の活性化のために宿泊税は必要な制度と捉えている。
<p>本間委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税は導入すべきと考える。苫小牧は観光客が少なく、特に11月から3月の閑散期の動きが鈍い。スポーツ協会の立場から、スポーツ大会や合宿の誘致を強化することで閑散期の宿泊者数増加が期待できる。民間団体との連携で大きな大会を開催すれば、宿泊者数増加と市の賑わいにつながる。 ・税率は事業者と相談し決めるべきだが、スポーツ関連の取り組みが宿泊税導入の効果を高めると考えている。ビジネス客だけでなくスポーツ目的の宿泊者も増やすことが重要。